琵琶湖北湖沿岸および内湖におけるホンモロコの産卵状況と水位の影響

寺井章人

１．目　的

ホンモロコは水面付近に産卵を行う特性を有し、水位低下による産着卵の干出死亡が危惧される。当場では産卵状況と産卵期間中の水位低下の影響を把握するために琵琶湖沿岸(2 地点)と周辺内湖(2 地点)において産卵調査を過去から継続して実施しており、2022 年度も同様に調査を行った。

２．方　法

琵琶湖沿岸（大津市小野、長浜市延勝寺）と周辺内湖（西の湖、伊庭内湖）の計 4 ヵ所において、湖岸距離約 50～100m のヨシ・ヤナギ帯で、2022 年 3 月中旬から 7 月中旬まで原則 1 回/週の頻度でホンモロコの産卵状況および調査定点での水深（現場水深）を測定した。調査時の産卵状況および次回調査時の現場水深から、ふ化までの期間、主に水中にあったと推察される卵を生存卵、主に水面上にあったと推察される卵を死亡卵、それ以外を不明卵として評価した。

３．結　果

産着卵は 4 月中旬から 6 月中旬まで確認された(図 1～4)。近年の本種の資源回復に伴い、両内湖および長浜市延勝寺では産卵が長期間にわたる傾向が見られたが、大津市小野では 5 月上旬～中旬と短期間であった。

例年 5 月下旬から 6 月上旬にかけて連続した琵琶湖の水位低下が見られる。本年は長浜市延勝寺で産卵盛期がこの期間と重なり、生存卵の割合が低下した（図 2)。またそれ以外の期間でも 5 月 4 日の伊庭内湖（図 4）や 5 月 11 日の大津市小野（図 1）のように産卵盛期が降雨出水後の水位低下と重なると生存卵の割合が著しく低下することから、水位低下が産着卵に大きく影響することが推察される。

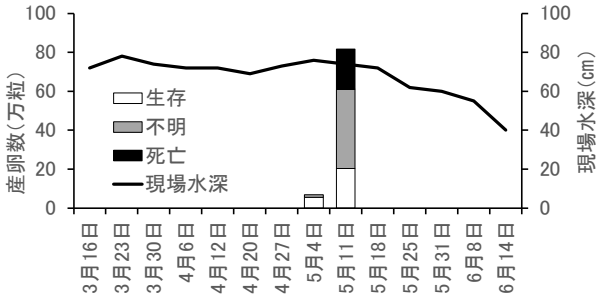

図 1　大津市小野における産着卵数の推移

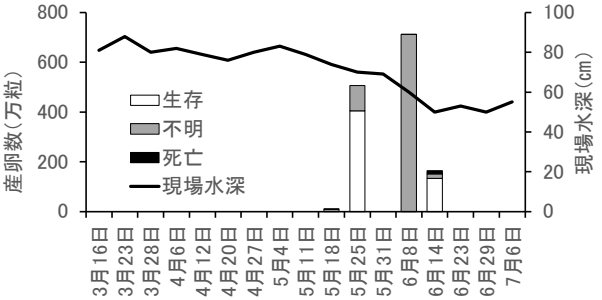

図 2　長浜市延勝寺における産着卵数の推移

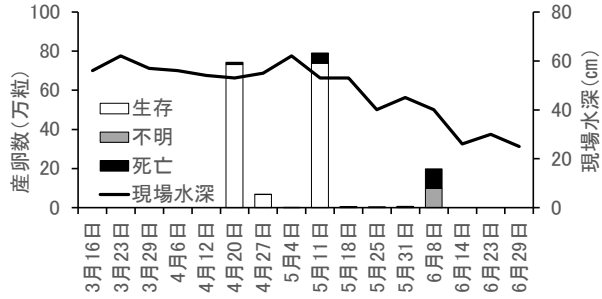

図 3　西の湖における産着卵数の推移

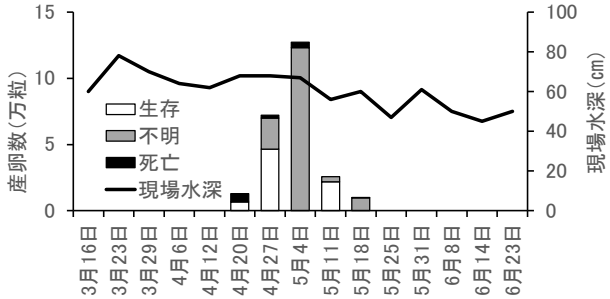

図 4　伊庭内湖における産着卵数の推移